

坂手修三デザイン事務所

新立体造形手法を用いた軽量・安価な立体看板による 新たな販売チャネルの開拓

坂手修三デザイン事務所は多摩美術大学出身の坂手修三代表が地元で創業したデザイン会社だ。新事業として新しく考案した立体看板事業を立ち上げ、事業の柱に育成しようと体制を強化している。従来の立体看板に比べてコストが安く、軽量などの利点をアピールし、飲食店などからの採用を見込む。東京都にも事務所を開設、多くの人に実物を見てもらう環境をつくった。大手チェーン店からも問い合わせが来ており、今後の受注拡大を目指す。

会社概況

美作国1300年プロデュース

多摩美術大学を1993年（平成5年）に卒業した坂手代表が東京都内のデザイン会社勤務などを経て、2010年に創業した。東京ではブランドデザインやパッケージデザインのほか、大手2輪車メーカーのオートバイをデザインするなど多種多様な仕事を担った。

坂手修三デザイン事務所では生まれ育った岡山県真庭市を拠点にグラフィックデザインを中心に事業を展開する。岡山県が2011年度から2016年度まで取り組んだ次世代自動車技術研究開発プロジェクトで試作した電気自動車「OVEC」のデザインや美作国建国1300年記念事業の企画・プロデュースも手がけた。これまでに岡山県屋外広告賞金賞などの賞を多数受賞している。



立体看板は軽量で持ち運びも容易

事業内容

2.5次元の立体で表現

ものづくり補助金の対象となる事業は新しく考案した立体造形手法を使った立体看板。従来の造形手法による立体看板は価格が高い、重量が重い、さらに高度な専門技術が必要なため、目を引く広告手法であるにもかかわらず、手軽に発注できるものではなかった。坂手代表は「もっと気軽に立体看板を活用してもらいたい」と常日頃から思っていた。

坂手代表が考案した造形手法は、食品などの対象物を厚みのある2.5次元の立体で表現するものだ。写真を2.5次元化することによって「シズル感やおいしさの表現が倍增する」（坂手代表）という。また、軽量のため、宅配便でも輸送できる。新しい造形手法は弁理士や中小企業支援機関の支援を得て、特許を出願した。



2019年に東京ビッグサイトで開かれた展示会に出展

事業成果

展示会ではチェーン店も注目

ものづくり補助金では立体看板を製作する工程を効率化する設備を導入した。自動彫刻機はデジタルデータを基に造形素材などを彫刻する装置で、造形工程に高度な技術が不要になる。さらにシール印刷とラミネーターの導入により、外注していた工程を内製化。柔軟な生産計画を立てられ、リードタイムも短縮した。

今後の課題は新造形法による立体看板の普及だ。東京などで開かれた展示会に出展し、約50社と商談を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大で休止した。また、導入対象は飲食店の中でも個店を想定していたが、「チェーン店も興味を持ってくれた」（坂手代表）という。大量に速く生産できる体制も構築し、対応していく考えだ。



自動彫刻機など立体看板の生産体制整備

ワンポイント

いかに消費者を呼び込むかが重要

日本フードサービス協会によると2019年の外食産業市場規模は前年比1.3%増の26兆439億円。飲食店の内訳では、前年比で最も増えたのは同4.9%増の「その他の飲食店」だった。新しいジャンルの料理店が伸び、競争は年々激しくなっている。自店の料理をいかにおいしく見せ、消費者を呼び込むかが重要になる。新立体造形手法による立体看板は食品サンプルと異なり、大きなサイズの看板も製作可能なためインパクトは大きい。今後の市場開拓が期待される。



代表
さか て しゅうぞう
坂手 修三さん

会社概要

設立 2010年
従業員数 2人
売上高 非公表
所在地 岡山県真庭市西原31-2

TEL 0867-52-0036
FAX 0867-52-1299
URL <https://rittai-kanban.com/index.html>